


誰もが安心して子育てができる中区をめざして

Q1.子育て世代にとって、ICTの活用も含め、より快適にご用が済ませる区役所のために、どのような環境整備が必要だと必要だと考えますか。

伊藤 久美子	<p>堺市のDX化の観点から、堺市のコミュニティサイトを構築するなど、もっと、区民との通信連絡網を確立できるような環境を作ることが望ましいです。</p> <p>たとえば、堺市のLINE公式アカウントを区別毎にも作成するなど、もっと区民と堺市との距離感を短くできるような環境づくりが出来たらと考えます。</p> <p>また、区内毎のイベントや行事、また災害状況が一括に見えるようにするなど、わかりやすく表示ができるような電子パネルやサイトの構築をお願いします。</p> <p>※これにより、イベントへの参加や協力がしやすい体制また、災害時の避難経路などが、リアルタイムで確認できるようになるのではと考えます。</p>
今西 千晶	<p>どの世代もLINEをやっている方が多いので、周知や相談する際のツールに言えば市民の方が利用しやすいと思います。</p> <p>さかい子育て応援アプリもLINEから飛べますね。</p> <p>Wi-Fi環境がないと料金がかかるのでWi-Fi環境を区役所に設置する。本庁はやっていたように思います。</p> <p>企業や地域団体でのオンライン研修はZoomを使っていることが多いです。Teamsやいろいろなものがありますが、一般的にZoomが使いやすい気がします。</p>
太田 佳世	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口に行くための事前時間予約制や各窓口の待ち時間（混み具合）がサイト等で見れるととても助かります。何度か足を運んだが、時間に余裕が無くて用を済ませることができず帰ったことがあります。 ・区役所に行かなくてもスマホ入力やデータ印刷等できれば大変うれしいです。 ・土日又は夜開いていると助かります。
金澤 正巳	<p>希望される相談者については面談室で相談を行うことで、プライバシー確保はされていますが、別室での相談がしたいとの希望を言い出しにくいと感じる保護者もおられると思うので、相談内容や保護者の様子を見て職員側から相談室での相談を案内するなどの気配りが必要だと思います。</p> <p>また、この質問に限らないが、子育てについての意見や提案は、やはり今現在子育てを行っている世代や子育てを卒業してすぐの世代の声を聴くことが重要になってくると思います。</p>
澤本 美奈子	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所での手続き中に、子どもを見ってくれる人やサポートをしてくれる人が近くに居ると安心です。 ・現在ベビーカーを置く場所がありません。スペース的に難しいとは思いますが、ベビーカーを置く場所が必要だと考えます。

<p>静 又三</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎全体の話になるので難しいとは思いますが、子連れの場合、エレベーターがあっても、幼い子どもを抱っこしたりバギーに乗せたりして子育て支援課がある3階まで上がるのは大変なことだと思うので、子育て世帯の利便性を考えるならば、1階に子育て支援課、保健センターを設置することが望ましいと思います。 ・エレベーターホール前と子育て支援課前の待ち合いスペースは、大人向けの設えになっているため、子どもに配慮したレイアウトに変更し、子どもが親しみを覚え、また来たくなるような環境にすることが必要だと考えます。また、子どもが喜んで来たくなる場所にする事で、子どもが親を引っ張ってくるぐらいの場所になれば、子の親も区役所に来やすくなり、Q2-2にも繋がるのではないかと思います。
<p>竹井 進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT（情報通信技術）に詳しい人材環境を整えることが必要だと考えます。 ・自治会館などを活用し、子育てが一段落した世代と子育て世代がお互いに助け合い、世代交流をしながら子育てに協力していく環境整備が必要だと考えます。
<p>田重田 勝一郎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・申請関係は基本的に全てオンラインでの申請ができるようにすることが必要だと思います。 ・相談関係は現在、Webexでのオンライン相談が可能と伺いましたが、一般的にWebexは普及しておらず、利用できる人は極めて少ないと思います。そのため、普及が進んでいるZoomの利用や、LINEやホームページに埋め込むタイプのチャットによるテキストベースでの相談を受け付けられるようにすべきだと思います。 ・時間外相談窓口の設置：子育て世帯は共働きも多く、区役所が開いている時間帯に相談できないことが多いと思います。そのため、休日や夜間に相談を受けられる窓口が必要と思います。 ・窓口での待ち時間が多く発生している場合は、病院などで導入されている、順番が来たらメール等で通知がくるようなシステムの導入を検討すべきかと思います。 ・待合スペースについて、小さな子どもがいる保護者の場合はプレイルームを利用できるようにすると良いと思います。
<p>巽 真理子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所での手続き時に、すぐそばで子どもが遊んで待っていただけるスペースがあるとよいです。 ・乳幼児は連れて家を出ること自体が大変なので、区役所に来なくても手続きできる仕組みが必要です。PCをもっている人が少なくなっているため、スマホで完結できる形式にすることが大切です。 ・児童手当の案内書などでは手続き方法を図式化するなど、パッと見てわかりやすい（文章を読み込む必要のない）記載方法にすると、外国人にもわかりやすくなります。

<p>谷村 修</p>	<p>窓口での待ち時間は、お子さん連れの方にとって負担かと思しますので、アプリなどで窓口の予約ができれば、待ち時間の解消ができるかと思います。そしてカウンターでは、小さなお子さんが座るためのイス（ベビーチェアなど）、おもちゃや絵本、カウンターから見える範囲にキッズスペースなどがあれば、より快適になるかと思います。フロアにおいては、お子さんを見守るためのボランティアさんの配置、授乳室（例：mamaro）があれば、利便性も高まるかと思います。</p> 
<p>仲氏 昌平</p>	<p>子どもと一緒に相談に行くケースも多く、子どもが暴れたり、泣いたりとなかなかカウンター席では相談をゆっくりできないとのこと。できたら個室部屋や子どもを一時的に短時間でも良いので預かってくれると助かります。その他、Zoom等を活用した相談や子どもたちが遊べるフリースペースがあればなお良いと考えます。</p>
<p>中辻 さつ子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在子育て支援課は、以前に比べて広くはなっているが、待合スペースや通路が狭くベビーカー同士がすれ違えないため、難しいとは思いますが広さが必要だと考えます。 ・相談する際に保健センター、子育て支援課どちらに相談していいか分かりづらいため、わかりやすくする工夫が必要だと考えます。 ・番号札発券の機械を設置してくれていますが、子育て支援課での手続きのためエレベーターホール前の待合スペースで待っている際に、自分の番号が呼ばれているか分かりづらいため、改善が必要だと考えます。 ・トイレは、ゆったりしていることが大事だと考えます。男子、女子トイレは、スペース的に難しいとは思いますが、子ども用トイレの設置が必要だと考えます。 <p>また、誰でもトイレになりますが、オムツを交換できるスペースがあれば良いと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットでの相談予約があれば、仕事を持っている保護者等時間のない方の相談につながると考えます。
<p>松居 勇</p>	<p>どうしても来庁しての手続きが必要になる場合は、休日に講座やイベント等の開催と合わせて手続きができるようであれば便利だと思います。</p> <p>さらに子どもが参加できるようなプログラムが用意されていれば（託児まで可能であれば理想的）、休日のお出かけ感覚で来庁することができ、子どもが遊んだりしている間に講座を聞くことができたり、平日に比べて時間にゆとりがあれば後述の「保護者同士や保護者と子育て支援者の関係を結びつけるきっかけ」もつくりやすいと考えます。</p>

森田 裕之	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを連れて区役所に来ることは困難なこともあるため、11ページにあるように基本的には、ネットを通じてサービス等の利用申請を完結できるようにすることが一番であると思われる。 ・そのため現状、ネットを通じて申請などをすべて可能にしているか、また可能でないものがあるとするば、どういものがあつてどの程度できないかを明確化し、完全にオンライン申請が可能となるようにすることも必要である。 ・また区役所に来所して手続きが必要である場合、どの程度の来所があるのか、またその場合連れてくる子どもの数や年齢がどういう構成であるのかを記録し、それに合わせた待合やカウンターの整備が必要です。例えば授乳スペースがあるか、複数の子どもを連れてくることが多いなら、またその年齢によっては子どもが相談を待っているあいだ遊ぶためのスペースがあるのか、そして保安上の理由などから、他のカウンターとの適切な距離感があり、子どもと他の来所者とのトラブルを回避できるような構造になっているかなどを考える必要がある。
梶原 愛未	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん連れの保護者の方の場合、おむつなどの荷物の多さが考えられるため、男女問わずトイレの個室内の荷物を置くスペースをより広くすべきではないかと思えます。同様に、子育て支援課の窓口においても、荷物を置くスペースがあれば相談もしやすいのではないのでしょうか。 ・窓口子ども用の椅子や絵本などがあれば、保護者の方が落ち着いて相談することができるのではないかと考えます。 ・トイレ内の壁やドアの内側に、「区役所ひろば」への案内や「さかい子育て応援アプリ」の周知を行うポスターを貼るのはいかがでしょうか。
桂 恵輔	<p>待合室では、子どもも待つと思うが、子どもは（長時間）待つことに慣れていない。そのため、子どもが辛く感じないようにする必要があると考えます。例えば、小児科病院のように絵本や漫画を設置するなどすれば良いのではないかと思います。</p>
小西 響	<p>時間や余裕がない中で安心して利用できるようにするためには、まず事前準備と時間内の負担軽減が挙げられる。具体的に事前準備とは極力外に出る時間を減らすということだ。家庭内はやはり子どもを安心して見ておける場所であり、子どもの世話をしながらでも何かできる時間がある。そのため、できるだけ区役所内でできることを家の中でできるようにすると区役所への用事が減ると感じた。ただ、全てをICT化するのではなく一部は訪庁する必要があるものを残して、区役所がある種の相談窓口であることを認知してもらうことが良いと思う。また、事前にどの手続きにどれくらいの時間がかかるかを把握できたり、受付の予約システムなどあれば良いと感じた。</p> <p>事前に減らせる時間は以上のとおりで区役所内での負担軽減はお子さんのことが迷惑にならないように気を配っている方に対してのケアだと考える。オフィスなので難しいかもしれないが静かな空間にするのではなく、少しくらいうるさくてもいいかと思える空間にすることだと思う。そのためには、子どもとスタッフのコミュニケーションが必要だと考える。</p>


堤 朋子	<p>子どもと一緒にいくことが多いと思うが、その際に子どもが騒いでも気にしないでもいい空間や、子どもが楽しめる工夫があればいいと思います。市役所では気を遣い長居したくないので、できるだけ行かないようにネットで行うなど工夫しているという話を聞きました。また、待ち時間が長いので子どもが退屈し長時間座ってられないという声もよく聞きますので、子どもが遊んでいてもいい場所や、絵本などのおもちゃがあれば助かるのではないかと思います。</p> <p>また、区役所の空間自体の色や、物が子どもからすると近寄りたく緊張する要因にもなるのではないかと思います。</p>
真栄田 愛花	<p>・平日の日中に区役所へ来庁して手続きが難しいような方に向けて、例えば休日や夜間でも様々な手続きが可能となるような環境整備が必要だと考えます。（マイナンバーを利用するなど）</p>
溝下 知佳	<p>区役所では常に大勢の利用者さんが待合室で待っているイメージ。なのでそれが子連れの人、忙しい人が区役所を快適に利用できない要因なのではないか。なので、窓口予約制を導入してはどうか。</p>
山口 睦季	<ul style="list-style-type: none"> ・待合スペースの椅子に優先ゾーンを設ける（電車の優先座席と同じ要領）。 ・待ち時間が分かるシステム（整理番号が各部屋のモニターに表示される、QRコードをかざせば今呼び出されている整理番号が分かる、ホームページにリアルタイムの待ち時間が表示される、など）が用意されており、待合スペース以外の場所でも待てるようにする。 ・待合室で子どもが飽きない工夫（絵本や塗り絵、おもちゃなど）をする。 ・リーフレットをエレベーター内にも置く。ほとんどの方が利用される場所に置いておくことで、パンフレットが置いてある場所に取りに行く労力が無くなるため、時間の無い方にも手に取っていただきやすくなる。 ・プレイルームの存在をもっと周知する。 ・トイレの幼児用シートやおむつ替え台などを、複数人使用可能な仕様にする（例：双子や年子のお子さんを連れていらっしゃる方だと、だれでもトイレ内のチャイルドシートが一つしかないので、困ってしまう）。
脇田 利奈	<p>「区役所に相談しても埒があかない」といった内容をよくSNSなどで見かけるため、そのイメージを払拭する（SNSは批判ばかりが目立つためこのようなイメージが広がるのだと思う）。</p> <p>このように感じる人がいる要因としては、「手続きが難しすぎて本当に助けが必要な時に手続きをする余裕がない」「サービスが周知されていない・必要な人に情報が届いてない」「根本的な解決にならなかった」などが挙げられると考える（あくまでこれらは中区役所の実情ではなく、世間がなんとなく抱いているイメージ）。</p> <p>➡これらを解消するための施策として以下の2点を考えました。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 手続きをより簡単に→難しいかもしれませんが手続き代行サービスがあると助かる * まずは相談しやすい体制を作る→子育て相談の周知と、その場の安心感の向上

Q2-1.どのように周知すれば、子育て相談の有用性が必要な保護者に届くと考えますか。

伊藤 久美子	<p>最近では子ども食堂があちこちで開催されるようになってきていますが、まだまだ数は少ないです。</p> <p>また、子育て相談に行こうとしても、勤務状況の問題で相談にも行けず、子育てにストレスを感じ、親子ともどもストレスを持つ世帯も多く、有効に機能できていないようにも感じます。</p> <p>できれば、オンラインで相談できるような窓口を作るなどして、相談のできる幅を広げる環境を構築してみるのいいと思います。</p> <p>また、オンラインには相談する体制にも検討する部分があると思います。相談する側も相談される側にもプラスになるような環境作りが、必ず必要だと思います。</p> <p>今の若い子育て世代には、やはりスピード感が重要だと思います。できるだけ、タイムリーに情報発信しながら、友達から友達へと伝える習慣を作ることも大切だと考えます。</p>
今西 千晶	<p>精神的に追い詰められていると、支援が必要なのに、周知が届きにくいこともあります。知っていても声をあげにくい心理状態もあると思います。匿名性を保てることや、いつでも相談できるといった気軽さがあると相談しやすい人もいるため、SNSやチャットを利用しての相談ができると良いと思います。</p> <p>余談になりますが、子どもを育てたいと思えるような（何人産んでも大丈夫と思える）環境を作る（経済的な問題がクリアでき、女性が子どもを産んでも働きやすい環境など）町に（国）にしたいですね。</p>
太田 佳世	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談の周知としては、園や学校と連携して情報を流してもらいます。子ども食堂が増えてきているので、そこに様々な情報チラシを配布するなど相談窓口のような取り組みを行います。 ・区役所や知らない人に相談するというのはハードルが高いため、地域住民や子育て相談を抱えている人と行政をつなぐ地域のコーディネーターのような人を作っていくことが必要だと考えます。 ・一家庭の子育てを未就学児期から学童期と途切れの無い支援や見守りが行える「家庭サポーター」のような人を、地域に作る必要があると考えます。
金澤 正巳	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEなどのSNSを活用して行政からの情報発信ができればより多くの保護者に情報を届けられると思います。 ・区役所に出生届を提出に来られた方に、情報提供すればもれなく情報を伝えられると思います。
澤本 美奈子	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙（みどり）は、明るく、分かりやすくなり読みやすくなりました。そのため、中区役所発信の情報等の周知につながっていると思います。 ・子育てに関する情報を、地域のサークルや掲示板などでお知らせします。

<p>静 又三</p>	<p>福田校区では、主任児童委員が子育て家庭への支援を目的として月に1回サークル活動を行っていますが、支援を必要とする人にとって、近所で相談するのは嫌なもので、また、区役所で相談を受けるのは敷居が高く感じるようでもあります。相談の有用性を保護者に伝えるには、地域活動の中で市民同士が交流できる場を広げ、顔の見える関係を通じてそこから支援の必要な人を区役所に繋いでいくということが必要だと考えます。また、この意見はQ2-2にも関連すると思います。</p>
<p>竹井 進</p>	<p>・広報、SNSの活用などは、発信が一方的になりやすく信頼関係が築きにくくなり、話がきちんと伝わらない原因となるため、イベントの活用、例えば子ども祭りなどで、子育て相談情報が入ったQRコードアプリを読み取ってもらった方に虫よけリングなどプレゼントするのが良いかと思います。</p>
<p>田重田 勝一郎</p>	<p>SNSの活用は必須だと思います。周知に関しては、LINEやInstagram、Facebook広告を利用し、中区の利用者に絞って広告を出稿することによって、よりリーチしやすくなると思います。 また、各種子育て相談の活動風景を個人が特定されない形でSNS上で情報発信することにより、参加へのハードルが下がるのではないかと思います。参加申し込みも、①SNSのDMで受付、②電話での受付、③そもそも参加申し込みを不要にする、などでハードルを下げっていくことも有用ではないかと思います。</p>
<p>巽 真理子</p>	<p>・母子手帳や乳幼児健診時に、案内を配布するだけでなく、窓口の人が簡単に説明することが必要だと思います。その際、気軽に相談できることを伝えるため、どのような内容での相談があるかなども案内が必要です。 ・「子育て相談が必要な保護者」が具体的にどういう人たちなのかによって、案内方法を変える必要があるので、まずは「子育て相談が必要な保護者とは誰か」について調べる必要があります。たとえば、相談をする必要が貧困からくるものなのか、育児経験がないことからくるものなのか、また働いている人なのか、専業主婦・主夫や育休取得者など主に家にいる人なのかなどによって、相談の必要性も窓口のあり方も変わってくると考えられます。</p>
<p>谷村 修</p>	<p>現在、さまざまな取り組みのある中、なかなか相談につながっていないという現状から、アウトリーチも必要かと思います。区役所に手続きなどで来られているお子さん連れの方に、イベントや講座の告知を行い、何か困られていることもお聞きできれば、課題の早期発見や、相談窓口の周知にも繋がるかと思います。さらには、スーパーマーケットなどの商業施設にて、出張窓口を設ければ、地域でのアウトリーチに取り組めるかと思います。</p>
<p>仲氏 昌平</p>	<p>相談が必要な保護者においては、ひとり親や貧困家庭、その他複雑な家庭環境下にあることも想定されますが、どの家庭においても日々生活していく中で食は欠かせないものです。例えばフードバンクの食材提供や子ども食堂開催時などさまざまな食に関するものと一緒に自然な形で周知することが良いと考えます。また、地域企業の協賛については、例えば啓発のシールを障害者施設の作業所に仕事として作成してもらうなどいろんな中区の企業や団体などを巻き込んで取り組みを具体化していくことが必要です。</p>

中辻 さつ子	<p>地域のお祭りやイベントなどを通じて、行政と直接つながっていなかった人にも情報が届けられる場合があります。そのため、行政から地域の代表者などにきちんと情報提供していくことで、情報を届けられる人の範囲が広がると思います。</p>
松居 勇	<p>子育て世帯が訪れることが多そうな場所（子ども用品の販売店、保育園や学校など）に広報物を配架します。</p> <p>ほか、思いついたポイントを以下に列挙。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な事業の案内があると情報整理に戸惑う方もいるかもしれないので、「子どもに関するワンストップ相談（子どもに関することならまずはここに連絡してほしい）」を強調した広報物の制作をします。 ・現代の子育て世代であれば、知りたいことや困ったことがある際に、まずはインターネットで検索するよう思われるので、インターネットで検索したらすぐに出てくるようなWEBコンテンツ（こちらから周知すると言うよりはあちらから見つけてもらえるような手法）を作成します。 ・子育てで挫折感等を持つ方の中には、面と向かっての相談に抵抗等を覚える方もいると考えます。そのため匿名で、例えばチャット感覚で相談できるようなものであれば利用しやすくなると考えます（そこから段階的に面会へとつながれば理想的）。
森田 裕之	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にアクティブモードとパッシブモードに分けて検討する必要がある。アクティブモードでは相談を区役所側から働きかける保護者が対象であり、パッシブモードでは働きかける必要はないものの提供サービスを周知する必要のある保護者が対象である。 ・アクティブモードでは、来所自体を促すべき必要がある保護者を識別するために、出産以降の提供サービスにおける食事のログデータを一元管理し、その解析を行うことで危険予測モデルを構築し、その危険度合いに応じて必要職員をアサインする方法を検討することで、人的資源配分の効率化を検討する。 ・パッシブモードでは、基本的に子育てサービス提供における保護者との接触時における周知、地域コミュニティへの一般的な周知を中心としつつ、対象保護者に対して発信を希望するメディアの調査を行い、その結果をもとに採算を考慮して決定する必要がある。

<p>梶原 愛未</p>	<p>・全世帯に宅配されている「広報さかい（中区広報紙みどり）」の活用 「中区広報紙みどり」では、「中区の相談」やホームページへの誘導を除くと、子育て相談先についての情報が少ないと感じました。そこで、令和4年（2022年）12月号の表紙のような特集を定期的の実施したり、相談できる内容や相談例についての情報を毎月掲載することにより、子育て相談についての情報を目にする機会も増えるのではないのでしょうか。</p> <p>また、「中区子育て支援課だより～なかHUGHUG～」を「広報さかい（中区広報紙みどり）」の折込チラシのようにするのも良いかと思います。</p> <p>（参考）中区広報紙「みどり」令和4年（2022年）12月号 https://www.city.sakai.lg.jp/naka/joho_naka/kohoshi.files/naka221201_03.pdf</p> <p>・子育てに関する情報のみを配信するLINE アカウントの作成 子育て相談も含めた、様々な子育て支援に関する情報のみを配信するLINE 公式アカウントを作ることにより、保護者の方に情報が届きやすくなるのではないのでしょうか。現在、「さかい子育て応援アプリ」による情報発信は行われていますが、日常的な連絡等でも利用することの多いLINE を用いて情報配信を行うことにより、より効果的な周知ができるのではないかと思います。</p> 
<p>桂 恵輔</p>	<p>・どのように広報するか 実際に、どれくらいの方が相談窓口で相談しているのかといったデータや相談してよかったといった相談者の声を含めて広報することで、相談しない・できないと考えている人も相談してみようかしらと考えるようになるのではないかと。やはり同じ子育て世代の生の声が一番信用できるものだと思います。</p> <p>・どう周知するか 誰もが利用する地域の産婦人科や児童用品店、保育園などに協力してもらうことが必要です。 （既に行われていたらすみません）</p>

小西 響	区役所に来庁された時に資料として持って帰ってもらう。その他、保育所などの子どもが関わる場所や生活する上で必ず行かなければならないところに掲示をすると良いと考える。また、区役所のメール配信やLINEなどで、相談会についての開催をお知らせするなどが良いと考える。ただ、情報が本当に必要な人にどのように届けるかは難しいので、地域や周りの人が相談所などがあることを伝えられるようにする。つまり、子育て相談の周知が必要だと思う。
堤 朋子	小児科、保育園、小学校、駅や、ショッピングセンターなど普段から用事で使う場所で、子育て相談をできるようになっていれば気軽に始めやすいと思います。他の地区では、子育て相談を小児科や保育園で行っている事例もあり、日常的に行っている場所や信頼できる病院の先生や保育士さんからの紹介なら、必要としている保護者に届きやすいと思います。また、何でもいいので相談してほしいというよりも、あえてテーマを絞って募集したほうが相談する側もこのテーマで困っているから相談してみようかなと思しやすいと感じます。
真栄田 愛花	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用。InstagramやXなど。 ・子ども園、幼稚園や学校との連携。広報紙の配布だけでなく、学校職員が直接保護者に話をするなどのアプローチをかける。 ・スーパーやコンビニエンスストア、病院、薬局など生活に身近な施設に子育て相談窓口などの掲示を行う。
溝下 知佳	<p>一歳までの乳児健診時に区役所の仕組み、今後子どもが成長した際に利用できるサービス等を周知する。</p> <p>→すべての子どもが受診する健診を広報の機会にすれば取りこぼしが無くなるのでは。</p>
山口 睦季	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に子育て相談をされた方の声を報告する。「相談してよかった」という前向きなレビューがあれば、安心して相談していただけるのではないかな。 ・そもそも相談することが前提となっている場所に対してプレッシャーを感じる方もいらっしゃると思う。「親なのにこんな悩みを持って良いのだろうか」、「こんな気持ちになるのはおかしいのではないかな」と感じていらっしゃる方々にとって、「相談してください」という言葉は時に大きな重圧になってしまいかねない。はじめから「相談」のための場所として設定してしまうのではなく、「繋がり場」をつくるのが大切なのではないかな。そのコミュニティで区役所の職員や子育て専門職、ママ友などの関係性を築いていく中で、「悩みを言葉にしても良いのかもしれない」と安心感を持っていただけて初めて、自然に「相談」ができるようになるのだと思う。 ・地域のサロンや子ども食堂、保育園や学校などでもリーフレットを配布していただき、家庭に届ける。

脇田 利奈	<p>ためにHPで子育て相談を調べてみたとき、以下のリンクまでは辿りついたのですが、「区役所子育て支援課(地域子育て支援事業)」「区役所子育て支援課」「子ども家庭支援センター」「子ども相談所」と並んでおり、どれを見ればいいのか迷いました。 https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/hughug/sodan/katei/index.html</p> <p>➡これらを解消するための施策として、以下の2点を考えました。</p> <p>* それぞれに簡単なキャッチコピーがあるとわかりやすく、それを上記URLのページの中に書いておけば、各ページに移動する前に一目でわかっていいと思いました。</p> <p>* 「どこに相談するか迷ったらまずはこちらへ」という窓口が欲しいと思いました。</p>
-------	---

Q2-2.どのようなテーマで子育て講座等をすれば、保護者同士や保護者と子育て支援者の関係を結びつけるきっかけになると考えますか。

伊藤 久美子	<p>子育てや子育て相談には必要なのは「コミュニケーション」であり、互いに思いやる気持ちを持つことが大切であると考えます。そのためには、共感しあえるようなテーマや運動などでコミュニティを作り、話し合うことが必要だと考えます。また、周りを巻き込む人やテーマがなくてはなりません、こういった活動を通じてつながっていく体制が必要だと思います。自治会や子ども会を通じて、もっとコミュニケーションのとれる場を作り、そこに積極的に参加できる環境を作ることが大切だと考えます。</p>
今西 千晶	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者さんが、何が知りたいのか、何に困っているのか、などの実際の声を聴いて一緒に考えていければ、受けてみたいという講座ができるのではないかと思います。アンケートでも良いですし、保護者世代の集まりやすいイベントを企画して集まってもらい意見を直接聞くなど。 ・高齢者は地域包括、乳幼児は保健センター、それ以外の子どもの相談先があればよいと思います。ハードルが高いかもしれませんが、コミュニティソーシャルワーカーや子ども相談センターなどと連携してもらうことが必要だと考えます。
太田 佳世	<ul style="list-style-type: none"> ・未就学児童での世帯は、子育てひろばでは親子で一緒に遊んだり、体を動かしたりできる「ふれあい遊び」や「リトミック」といった講座が好評です。 ・保護者の人自身が楽しめるような手芸や制作といったものも好評。一緒に作りながら関係性も築き、様々な話や悩みを聴きます。 ・学童期児童の世帯は、「子どもへの関わり方、叱り方、しつけ」といった相談や「教育に関すること」「学校生活（行くことが難しいことも含む）」相談を子ども食堂でたくさん受けるので、子ども食堂で今後講座開催や座談会を予定しています。なので、そういった内容の講座だと足を運んでもらいやすく、そこで保護者同士悩みの共有や、子育て支援者がそこに関わることで結びつけるきっかけ作りになると思います。
金澤 正巳	<ul style="list-style-type: none"> ・現在各地域ではサークルやイベント等を行っていますが、参加人数があまり多くないときもあるため、周知の方法やイベントの内容を検討し、保護者同士や子育て支援者が対面で話ができる機会を増やしていくことが必要だと思います。 また、行政と一度つながった後も、行政に相談することにハードルが高いイメージを持つ方もいるため、支援の必要な方には家庭訪問等で実際に足を運び、見回る活動を続けて信頼関係を築いていくことが必要だと思います。 ・地元から離れて知らない土地で子育てしている世帯に対して、つながりが持てるようなことがあるとよいと思います。また、子育てにより抱え込む様々なストレスを少しでも解消するため、同じテーマで愚痴などが吐き出せるような講座があればよいと思います。

澤本 美奈子	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園（子ども園）の保護者の方に声掛けをして、どうすれば子育て支援者と関わることができるか聞いてみたり、区役所のイメージを聞いてみる必要があると考えます。
静 又三	<ul style="list-style-type: none"> ・平日に子育て相談のサークルを地域で開催しても、共働き世帯が多いので参加者が少ないです。資料にあるように、時間にゆとりのない保護者が多く、保護者同士や保護者と子育て支援者の関係づくりが難しい状況を地域でも感じています。テーマや講座等の内容も大事ではあるが、地域でのサークル活動の開催曜日を見直して共働き世帯も参加しやすしたり、近所に住む者同士が顔を合わせる機会を増やしたりすることが、保護者同士や保護者と子育て支援者の関係を結びつけるきっかけになると考えます。
竹井 進	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、いじめ、ひきこもりなどのテーマで育児・子育てについて尾木直樹（尾木ママ）など人気講師による講演会を開催します。
田重田 勝一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士のつながりを作るには講座という受け身で聞く形よりも、同じ悩みを持った保護者同士が自由に話せる茶話会（自助会）のような、コミュニティ型のイベントを行うほうが良いのではないかと思います。 ・子育てに関する本やグッズ、食べ物などを紹介したり試食したり販売したりするマルシェのようなイベントを行い、子育て支援者とその場で相談できる形を取ることができれば気軽に参加でき、つながりをつくるきっかけになるのではないかと思います。
巽 真理子	<p>現代では子育てのあり方が多様になっているため、子どもとの関係より、子どもをとりまく大人同士（夫婦や祖父母など）の関係で悩む人の方が多いように思います。また、少子化で子どもが少なくなっているため、親子同士が知り合う機会も減っています。また、共働き世帯がほとんどになっているので、平日の講座への参加は、母親でも難しい。ということで、下記のとおり提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色んな人たちと一緒に子育てをすることを考える講座（対面／オンライン） ・親子連れが多い場所で、気軽に参加して、子育て支援に関する情報を得られるイベントを開催する（ex.北区子育てフェスタ）
谷村 修	<p>食育、とりわけ離乳食の作り方の講座がよいのではないかと思います。その講座を区役所、子ども園、保育所、幼稚園など子育てに関する施設で行うことで、そういった施設を知ることができ、また支援に関わる方々が参加することで、支援者との関係性もつくることができると思います。</p> <p>もう1つは、パパのための育児講座を増やすことです。パパの育児に関する理解を深めることで、ママの負担軽減にもつながり、ママ同士だけではなく、家族同士での繋がりも増え、パパが子育て支援者と繋がることで、パパからの相談もしやすくなると思います。</p>

仲氏 昌平	<p>子育て中のママさんが働ける、働きやすい企業さんとの（実際に子育てしながら中区の企業で仕事をされているママさんの話をきくなど）マッチングセミナー、本格的な料理教室（講座）やひとり親でも生き抜く力を養う経済学や起業（成功者の話）などの講座等を開催すれば良いと考えます。</p> <p>その他、企業側も労働者確保に向けて子育てをしながら働ける環境づくりをしているところも多いため、工夫されている企業の話を知りたいと思います。</p>
中辻 さつ子	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みや夏休みの小学校低学年（1から3年生ぐらい）の子どもを持つ親を対象に講座を開催します。 ・中区に転入してきた子育て世帯の保護者が孤立している場合があるので、地域になじんでもらうように考えてほしい。例えば、転入してきた子どもを持つ保護者を対象に講座を開催します。 ・学校と連携し、情報共有、発信をしてほしいです。
松居 勇	<p>実践的な内容（料理教室、お片付け講座、遊び方レクチャーなど）のイベントや講座を開催します。共同作業を通じて関係をつくれます。</p>
森田 裕之	<ul style="list-style-type: none"> ・Q2-1と同様、保護者自身が能動的に参加可能な場合と、受動的にしか参加できない場合に分けて考える必要があり、そのテーマも異なるかもしれない。 ・そのため上記の2種類の保護者のニーズを把握できていない場合、ニーズ把握調査が必要である。その上でニーズに合わせた講座を提供するべきであると考えられる。 ・ニーズが共通している場合は、それぞれの保護者に対して、適切なメディアを用い周知を行う。
梶原 愛末	<p>子どもが次のステップへ移る時の不安を軽減できるような内容が良いのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期前～思春期の子育て講座（小学生・中学生の保護者の方対象）就学後の保護者と支援の場を結びつける講座として、保護者と子どもの関係性が大きく変わる節目でもある、「思春期」の子育てをテーマにしたものは効果的ではないかと思えます。 <p>（参考）堺市南区 子どもの育ち応援講演会 第2回「思春期の子育てについて考えよう」 https://www.city.sakai.lg.jp/minami/annai/gyomunaiyo/kosodateshien/tanoshimo/df_filene_19.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ安全講座 <p>今の時代、「スマホ」や「SNS」などの管理は、保護者の方にとって悩むことの多い部分ではないかと思えます。どのようにルールを決めるのか、子どものインターネットの使い方などをどのように補助するのかなどについて、保護者の方が学んだり、保護者同士で話してみたりする機会として、「スマホ安全講座」をするのはいいかでしょうか。</p>

桂 恵輔	<p>孤立している保護者や精神的に追い詰められた保護者に向けた講座にすることで、それらの特に困っている保護者を救い上げる機会となるのではないかと考えます。</p> <p>例「育児に疲れたときどうすればいいのか」など</p> <p>また、この場合、直接講座にくるハードルは上がると予想されるので、Zoomなどのオンラインツールを併用するなどして、気軽に参加できるようにする工夫が必要だと考えます。</p>
小西 響	<p>今現在でも行われているターゲットを絞った子育て講座は参加しやすいのはもちろんのこと保護者同士も話が弾みやすいと思う。また、子どもでなく親にフォーカスを当てた親としての心の持ち方などについて考える講座も良いと思う。実際の講座の状況を知らないが、保護者と支援者が先生と子どもではなく対等な立場ですぐ相談できるような友人的な関係になるといいと感じた。</p>
堤 朋子	<p>生まれる前の講座の時に聞いた話が参考になっていて、とてもよかったという話を聞きます。また、子どもが生まれてからはそのイベントや講座で子どもを預かってくれるのかや、子どもが自由に遊べる空間があるのかが重要だと聞きます。また私の家庭では、子ども同士が仲がいいことが、親同士が仲良くなるきっかけになりました。つまり、子どもたちのためのイベントや、楽しみとセットで集まる講座の方が親が参加したいと思うのではないかと考えます。また、子育てで悩んでいるときは講座に参加している余裕はなく、時間に余裕ができてきてからは参加しようと思わなかったと親は言っています。そのため、困ったときに話を聞いてくれるという人がいたら心強いと思います。</p>
真栄田 愛花	<ul style="list-style-type: none"> ・家計の節約術について ・料理のレシピについて、時短術などについて ・自宅での子どもとの遊び方について
溝下 知佳	<p>「相談相手が少なく、不安を抱えている親御さんが子育てのプレッシャーから解放されるように」、というテーマでもって子育て講座等を開講すればよいのではないかと。</p> <p>→講座を育児スペースがある場所の隣で開講して、内容も趣味や余暇に振る等</p>
山口 睦季	<p>資料25ページに「未就園児が中心の保護者向けの講座等に参加された方へのアンケート」という記載があったが、講座に参加したりアンケートに答えたり出来る方は比較的子育てに余裕のある方で、切実に追い込まれてしまっている方はそのような余裕が無いと思う。アンケートで声を拾うことはもちろん大切だが、そもそも声を上げられない方がいらっしゃる事、そのような方々の悩みこそ行政や社会資源からのアプローチで改善する必要性が高いということは、念頭に置いておかなければならない、と感じた。子育てに余裕が無いことを受け止めるようなテーマが一つの案だと考えた。「余裕が無いことを責めなくて大丈夫ですよ」、「子育てに不安を感じることはだめなことじゃないですよ」というようなメッセージをお届けできれば、不安やプレッシャーを軽減することができるのではないかと考えた。</p>

脇田 利奈	子育て中の保護者に不安なことは何かアンケートをとり、それに関する講座を行う 子育て中の保護者にとってお得・便利なサービスについて学べる講座を行う
-------	---